

## 4000 名山記 2022 年

### ○4000名山記の掲示板の最終報告と御礼。

○およね山好会の掲示板終了:R4年7月31日に伴い、これが、最終の書き込みとなります。4000名山の挑戦開始は、日本山岳会の四国分水嶺の報告会で、「新日本山岳誌」の分厚い本を割引で購入し、記念Tシャツと日本地図に山名、標高が書き込まれたチャレンジ4000を戴いた年の2008年秋から始まりました。それまで日本100名山、200名山、300名山を平成14年(2002年)7月に踏破して以後は、漫然と山歩きしていました。その本購入等がきっかけで、今まで知らない未知の山の世界に足を踏み入れました。始めは、故郷福島県の「霊山」を2008年11月15日に開始。2010年8月28日より「およね山好会」の掲示板開設者の了解を戴いて掲示板への山歩きの記載が始まる事が出来ました。以来、開始時から振り返りの記載含めて、12年に亘る長い間、掲示板が維持されたことは、パソコンを持たない私にとっては、山歩きの記録の整理と未踏の山をどう歩くかで、毎週の山歩きの励みとなり、改めて御礼申し上げます。

○さて、今後については、個人での山歩きのメモの世界になりますが、上記本の未踏の山歩きを可能な限りトライして行きます。

○新日本山岳誌の残りは、北海道8山(北方領土の山5山除く)と鹿児島県、沖縄県の島々の山32山(魚釣島の山を除く)です。詳細を書いて意味があるかは、別として、下記に概要とトライ意向を書いて掲示板への書き込みは、終了とさせていただきます。長い間、お付き合い戴き有難うございました。

○北海道 「江良岳(大島)732m」 無人島、過去学術調査の記録あり。アプローチ困難。「キリギシ山1057m」 植物保護のため入山禁止。アプローチ困難。

「丸山1692m」 道のない山:トライ(アプローチ長く、徒渉、沢登りあり:この8、9月にトライ)

「下ホロカメトク山1668m」 道のない山:残雪期にトライ:来春以降。

「屏風岳1792m」 道のない山:上記に同じ。

「群別岳1376m」 道のない山:今春の浜益岳よりその秀麗な山容にトライ 上記に同じ

「忠別岳1963m」 大雪山系縦走ルートの奥深い山:この8、9月にトライ。

「沼ノ原山1506m」 上記に同じ。沼ノ原は、行っているが、その上の藪山は、未踏。結論:6山をトライ。

○鹿児島から沖縄の島々32山:飛行機と船でのアプローチで、天候によるアプローチ困難と費用・時間・日数等が読めない(サラリーマンの山歩きでは、限界)。

○大隅諸島11山うち屋久島7山、奄美大島2山は、トライ。

○南西諸島21山うち徳之島4山(うち井之川岳645mと太田布岳417mは、アプローチ出来るか不明:ハブに注意)は、トライ。西表島3山うち古見岳469m:ジャングル藪山だがトライ。

○結論:島々の山は、上記14山をトライ。他の島々の山は、無人島、火山の山、道なしが大半でトライするか、出来るかは現在のところ未定。

○以上長い間、勝手気ままに山歩きの記録を掲示板に書き込み出来まして、皆様に感謝の気持ちで一杯です。寂しいですが、これで、長い長い日本列島の山歩きの記録は、一旦終了とさせていただきます。長いお付き合い本当に有難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

ます。それでは、またいつか、どこかの山でお会い致しましょう。

○7月19日(月)~22日(金) その2

○7:21道北1山(1山) 晴れ

○「西クマネシリ岳」山頂9:35、(ピリベツ岳)同10:55 5:25~14:40(9:15) 三の沢林道(シンノスケ)ゲート口より往復。入口で、車内でパソコン作業をする人を横目にゲート経て、旧林道を進む。道は、荒れて洪水等で掘られた道をフキ等をかき分け進む。崩壊した林道に沿う川の徒渉地点に戸惑い、登山靴ごと川に浸り、ずぶ濡れ。上の林道に出て靴を脱ぎ、靴下を絞り出す。靴を履くが、すぐ靴下はグッショリで同じことの繰り返し。上流に進み、川幅は、狭くなったが、再び小川に靴ごとドボンとなり、林道に出て、靴下の絞り出し等の繰り返し。川の上流に進むが、道が不明で、右往左往しながら、道探しでくたびれる。左岸を進むが進めず、右岸に替えて進むとしっかりした林道となり、登り進む。テープ、案内表示出て、荒れた道だが着実に登り進んで行く。道が不明なところもあるが、それらしきとテープ辿り登り進む。急坂を登り、右に大崩壊地を見て登り進む、大岩塊。杖を置き、ロープある急坂岩を手、足がかりを確認し慎重に登り、急坂登り進むと西クマネシリ岳山頂。ハイマツ、小岩のある丘の山頂。晴れて南にクマネシリ岳等山々の眺め良い。靴を脱ぎ、靴下を絞り、少し乾かし食事。来た急坂を慎重に下り、杖を回収し、稜線を下り、テープある分岐よりそのまま北へ下り、向かいの山を目指す。急坂をゆっくり下り、鞍部より急坂を登り返して進むとピリベツ岳山頂。折れた表示棒ある小笹、かん木の丘の山頂。西クマネシリ等山々の眺め良い。晴れて、小鳥の声のみで静か。来た稜線を鞍部に下り、西クマネシリ岳からの尾根方向にトラバース気味に獣道を下る。藪を避けつつ下って、少し不安もあったが、本道らしきに合流し、林道を淡々と下る。道不明なところも下りは、道らしきがわかり淡々と下れた。徒渉地点は、倒木の上を歩いたり、川の水位の低いところを探して下り、登り時のドボンなく、荒れた旧林道に出て無事ゲートに戻る。

○7:22 道北1山 晴れのち曇り

○「武利岳」5:50~15:05(9:15)武華山と同じトラロープ口より往復。前回荒れていた沢と小川は、いつもの通り清流で静か。武華山分岐より北へと稜線を進む。ハイマツ、かん木をかき分けつつ下る。シャクナゲ帯となり、花が見頃で楽しみながら下って行き鞍部。鹿が鳴く笹原となり、テープ等辿り、笹をかき分け進んでいく。2つの鞍部経て、南面の背丈以上の笹藪となり、藪の薄いところ、下の道らしきを辿り、急坂をゆっくり登って行く。ある標高過ぎるとハイマツ帯となり、急坂を登り、稜線尾根に出ると展望が開ける。岩稜の細尾根稜線が続く。ハイマツ、岩道等をゆっくり登り進む。幾つかのピーク経て、遙か先の沢の音も聞こえ静か。急坂経て、稜線に表示見えて細い稜線進むとその表示が、武利岳山頂10:50。一等三角点ある岩稜のピーク。ハイマツ、小鳥の声、風あり。東側から雲が湧いて来る。その東斜面に黄色の高山植物が顔を出す。遙か西方に次に目指す屏風岳らしきが見えて山々の展望を楽しむ。来た道に戻る。稜線ピークで、薄い板のような岩を見つつ、慎重に下って行く。ハイマツ帯の熱気と谷風を楽しみながら下り、稜線から急坂を慎重に下って行く。笹原は、笹を掴みつつ下り、テープ等確認しながら鞍部経て、シャクナゲ群経て、急坂登り進む。ハイマツ帯経て、武華山分岐。一息入れて、曇り空のもと、尾根末端に出て、長い杖に助けられ、急坂を快調に下る。緩やかになり、沢の清流を眺めながら下り、ライオン岩分岐、登山口経て、前回と違い余裕を持って登山口に

戻る。 今回の遠征はここまで。

○tea cup の掲示板は、7月末までのため、それまでに今までの御礼を再度書き込み出来ればと思います。長い間本当に有難うございました。心から御礼申し上げます。

○7月18日(月)~22日(金)北海道中央3山、北3山(1山) その1

○7:18「空沼岳」8:10~16:20(8:10) やまゆき会とおよね山好会のコラボで、4000名山の記念登山。地下鉄真駒内駅よりタクシーで移動し、砂利採取場より往復。真駒内橋口で準備体操して出発。林道を進み、川岸の岩場経て、登山口。入山届けを書き出発。川を懸けられた幾つかの橋を渡り、進んで行く。雄大な北海道の森を確認しながら、なだらかな登山道を進む。エゾマツの巨木、小川の徒渉等経て進み、滝を経て、万計沼の小屋で昼食。記念撮影し、時間が押したため、後は各自のペースで来た道に戻ることを確認し急いで、山頂へ向かう。真簾沼経て、アップダウンして進むと稜線の札幌岳分岐。稜線を南へ進むと程なく空沼岳山頂12:40。岩岩、ハイマツ、かん木丘の山頂。東側絶壁で、晴れて風あり。小鳥の声心地良く、札幌岳等山々の眺め楽しむ。他のメンバー3名の到着、写真撮影後に下山開始13:20。真簾沼の景観を楽しみ、万計山荘。1名と合流し、曇りで、白い森を淡々と下り、登山口で下山時刻記載し真駒内橋経て、砂利採取場に戻る。

○7:19「武華山」道北1山 曇りのち雨 12:15~17:50(5:35)林道トラロープ通行止め手前駐車場より往復。車2台あり、旧林道進み、沢を経て、崩壊地をトラバースして進み、川が流れる大きなコンクリート管の上の林道を進む。大きなフキをかき分け、右から幾つかの小川を越えて旧林道を進んで行く。登山口で入山届け出し、登り進むと分岐で、右の東尾根へと向かう。左に川を見ながら、緩やかな道を進むと山頂まで2kmの表示。ここから急坂を登り進み、尾根末端。6名のパーティーに挨拶し、シャクナゲとハイマツ等の緩やかな尾根を北へと進み、分岐。山頂まで1km表示。幾つかのピーク経て、南へ稜線進むと武華山山頂15:15三角点あり、大岩と稜線のピークで、晴れるが、雲が湧いて来てすぐ曇る。山々の眺めあり、小鳥の声、沢の音が聞こえて静か。来た道戻り、稜線の分岐(武利岳)から北へは、時間なく次回。天候が怪しくなり、雨が降りだす。尾根末端より上に雨具を着けて、急坂下るも雨は止まず激しくなる。右に見える川は少し色がついている程度。雨が止まず、下も雨具を着けるが、既にずぶ濡れに近い。ライオン岩分岐経て下ると様相が急変。左からの小川は、茶色に濁り増水。登山口ポストは、大雨でずぶ濡れになりながら記載し下る。左側からの小川は、増水して来ており、急ぎ下る。ただ、右側の川の本流は、濁流で暴れ狂っている状況。この川を渡ることは出来ないと焦りながら下る。雨は、止んだが、川の濁流は激しい。登る時に見た大口径のコンクリート管の記憶はなかったが、その大口径のコンクリート管上の林道を無事通過でき胸を撫で下ろす。トラバース道経て、小沢渡り、登山口に戻れて大安堵。

○7:20道央2山 曇りのち晴れ

○「富良野西岳」8:25~13:30(5:05)富良野スキー場駐車場より往復。夜中から降り続いた雨が小止みになり、身支度し出発。スキー場の管理道を上へ上へと登り進んで行く。急坂道を進んでいると大きな4輪駆動の車が、急坂をものともせず登り進んで行く。淡々と登り進み、リフト終点経て、登り進むと山頂リフトが左手の奥に見える。程なく、ゴンドラリフト山頂終点となり、2つの囲いのドッグラン見て上へ進み、熊の鐘のある登山道入口。整備された道進み、左上へと登り進む。幾つかピーク経て、進むと山頂リフト終点に出る。そこから再び山入りし稜線を西へとアップダウンしながら進む。先に山らしきが見えて、トラバース道経て、急坂を上へと登り進む。稜線となり、南へと登り進むと岩稜帯となり、進むと富良野西岳山頂11:10。一等三角点あり、

岩峰のピークで東側が絶壁。眼下に集落の眺めと西側に山々の眺めが良い。雲が湧き、小鳥のさえずり、そよ風が心地良い。来た道を下る。エゾカンゾウ、シナノキンバイ、ルピナス等高山植物を楽しみ、山頂リフトより作業道下り、ゴンドラ山頂。あとは、急坂をゆっくり下る。途中再び大きな4輪駆動に会い、駐車地に戻ると、ゴンドラが試運転か動いていた。

○「上ホロカメトク山」15:50~19:15(3:25)十勝岳温泉駐車場より往復。時間が遅くなり、急ぎ出発。広い整備された林道を急ぎ登り進むと火山監視施設が見えるところに出て谷を渡り対岸へ。右へと富良野岳の方向に進む。右上へとトラバース気味に右から回り込みながら進むと富良野岳と上ホロ分岐。左の上ホロへと更にギアを上げて登り進む。急坂の木製階段を一気に登り進み尾根。ウメバチソウ、ツガザクラ等の高山植物を確認しながら急坂経て、2度目の上富良野岳山頂17:25。岩のある丘の山頂。更に十勝岳方面へと下り、登り返して進むと上ホロカメトク山山頂17:40。ガレ地の平坦な山頂で雲で白い世界。西側絶壁で、東側に下ホロカメトク山へのルートを探索するもロープあり、道らしきないことを確認。風もあり、急ぎ来た道に戻る。上富良野岳より急坂を下りつつ、高山植物を確認。急坂の木製階段は、慎重に下り、緩やかとなり、急ぎ足で進み中間点の富良野岳分岐。ここからも急ぎ足で、岩等越えながら下る。谷経て広い林道に出て安堵。夕焼け空を眺めつつ下り、明るいうちに駐車場に戻る。

○7月10日(日)曇りのち晴れ 日本山岳誌以外 大阪南(3山) 例会に参加(府岳連との共催で清掃登山)。(提灯講山198m)山頂10:00、(藤戸山305m)同13:10、(高野タカノ山285m)同13:55 9:00から15:00(6:00) 南海みさき公園駅~孝子駅まで 駅より住宅地の階段経て、登山口。県道バイパス下を抜け急坂、階段、ロープ道等経て、1Pの提灯講山。樹林の丘の山頂で一休み。ごみは少ないが少しずつ回収。更に奥へと稜線をアップダウンしながら進む。蒸し暑い中、急坂をゆっくり進み、2度目の飯盛山山頂11:25。三角点、展望デッキあり、晴れて山々、海、淡路島の展望を楽しむ。昼食後鉄塔付近で、大阪の山の自然の話聞く。更に西奥へと稜線進み、札立山分岐より西へ。稜線進むと1Pの藤戸山山頂。樹林の丘の山頂で木漏れ日が良い。更に稜線を進み、高野山山頂。樹林の丘の山頂で一休み。ここから稜線を下り、高仙寺に出て一休み、記念撮影し階段下り、集落、バイパスの下を通り孝子駅に出て解散。

○7月2日(土)、3日(日) 日本山岳誌以外(3山) 奄美大島の山を予定していたが、急な台風の発生で土日の悪天候と帰りの飛行機が飛ぶか不明で、予約して支払いした飛行機とレンタカーを急遽キャンセル(飛行機代は、現金では戻らず、180日期限のポイントでの返還:失くしたも同然で悔しい:もう予定は立てにくい:やはり島の山歩きは、無理なのかな? 関西の山歩き。

○7:2 奈良南(1山) (清水ガ峰1186m)13:10~17:10(4:00)赤谷橋口より往復。大水で、キャンプ場等管理施設も廃墟で古い名残と整備された河川地。登山口不明で、西へ洪水後整備された河川を少し上流へ進み、堰堤手前より急坂の獣道に取り付く。木、岩等に掴まりつつ上へ上へと登り進み、左の尾根らしきへ植林地をトラバースすると本道出合い。蒸し暑い中、ピッチ上がらず、ゆっくり登り進む。古い休憩地跡経て進み、旧作業道を横切ると山頂への表示あり。登り進むと急斜面に更に標示あり、西側は、崩壊地。その上まで進み、配線、カーゴ施設等経て、開けたところに出て鉄塔。更に西の奥へとくだらかな稜線を進む。ブナ林等森を楽しみ、樹林の涼しい森を進むと清水ガ峰山頂15:30。三角点あり、樹林の丘の山頂。晴れて風あり、心地良い。東に山々の眺め良い。虫多い。来た道を確認しながら戻る。本道を旧施設へと下るも、尾根を辿り過ぎ最後

は、岩場に出る。車がすぐ下に見えるも、駐車地の道まで7、8mの高さ。少しずつ岩、枝にしがみつき、最後は3m程飛び無事着地し橋の袂の駐車地に戻る。

○7:3 和歌山北(2山) 雨後一時晴れ (観音山258m)山頂9:25、(岩神山238m)同9:40 8:05~10:50(2:45) 大福山本恵寺より往復。(この日も4度目のトライで、友ヶ島への船乗り場に行ったが、今日も欠航:島の山は、予定が立てられない。どうしようもない諦めの境地)。登山口を色々探すも不明でやむ無く、寺の奥に進み、獣道らしきを北へ進むとフェンスのある施設。右へと住宅地のフェンス沿いに小藪道を小雨の中進むも崖と藪と高いフェンスで越えられず諦めて引き返し、元の施設のフェンスを左に進むと公園となり、小藪分け、サンシャイン紀の川台住宅団地のあおぞら公園に出る。住宅地を北へ進む、山の麓の配水施設の舗道終点よりテープある道らしきより山入り。急坂登ると本道の見晴台に合流。北へ稜線を奥へと登り進むと1Pに観音山の標示。樹林の稜線のピーク。そこから下って進むと後ろからトレランの団体が駆けて来る。びっくりして声を上げてしまう。バラバラながら、10数名のパーティー。下った三差路で休憩しており、目指す山の方角を教えてもらう。北へ進む、大福山への分岐を左へ。登って稜線をアップダウンして進むと目指した岩神山山頂。樹林の丘の山頂で、図根三角点あり、修行の標示木もある。晴れて、和歌山の市街、紀の川、南の山々、北の札立山等、西の海岸線などの大展望を楽しむ。来た道を確認しながら戻る。寺の近くより再びパラ雨となり、階段下の駐車地に戻る

○6月26日(土)、27日(日)日本山岳誌以外奈良南(2山)、和歌山南(2山):これで2006年の5月連休の有志山行から始まった大峰奥駈の大縦走は、4分割したが、無事完了。有志山行、例会等皆様に助けられて歩くことが出来て感謝。この16年の強い思いに浸り、思わず万歳と叫ぶ。

○6:26 奈良南(2山) 曇り

○(1091m峰)16:10~40(0:30)山を間違えてR733川津大橋先の林道のこの先通行止めの林舗道三差路切通より往復。林道走行より見えたピークを目指し境界標のある稜線を1P経て、進むと1091m峰。二等三角点ある樹林の丘の山頂で、曇りで静か。来た道戻る。

○(法主尾山1024m)17:00~18:05(1:05)先の林舗道を分岐より更に戻り、鉄製梯子口より周回。駐車地よりガレ場を見つつ、鉄製梯子まで戻り、急坂を登り、植林地の保護ネット沿いの急坂の獣、作業道を茨を避けつつ、山イチゴを食べ放題を摘みながら登り進む稜線。境界標、テープ等を辿り、稜線を北へ下り、アップダウンしながら進むと平坦な植林地となり、法主尾山山頂17:50。三角点ある樹林の平坦な山頂。曇りで小鳥の音が聞こえ静か。来た稜線に戻り、途中の開けたガレ場の急坂をゆっくり慎重に下り、林舗道に出てすぐ駐車地(少しショートカット出来た)。

○6:27 曇り、雨のち晴れ (大黒天神岳573m)山頂6:25、(五大尊岳825m)同8:00 5:35~12:55(7:20) 山在峠より大森山まで往復。遂に大峰奥駈縦走完登。案内を辿り北方へと登り進む。パラ雨が降り出し、1P経て登り進むと大黒天神岳山頂。二等三角点あり、樹林の丘の山頂。雨続くため、上下に雨具着けて小降りの雨の中、稜線を下り、アップダウンしながら進む、急坂等経て、五大尊岳山頂。碑等ある岩の丘の山頂。雨が続き、すぐ先へと下り、登り返して北へと稜線の岩、ロープ等の急坂などを徐々に高度を上げて進む。緩やかな植林地となり、進むと大森山三角点(点名 大水ノ森)。

腰を下ろしてゆっくり食事。雨が止み、さらに奥へと稜線進むと2度目の大森山山頂9:40。後は、来た道に戻る。緩やかな稜線末端で雨具を脱ぎ、後は身軽に稜線の急坂、ロープ、岩道等を下る。途中4人パーティと1人の登山者に挨拶。五大尊岳で、晴れた山々の展望を楽しみ、大黒天神岳で一息入れて、山在峠に戻る。

○6月12日(日)晴れ 日本山岳誌以外 京都東(4山)

○(横高山767m)山頂11:20、(水井山794m)同12:00、(小野山670m)同13:50、(梶山681m)14:40、9:45~16:15(6:30)バス停留所の登山口より大原バス停留所へ縦走の例会に参加。コース、地図の見方、コンパスの使い方等説明を受け、準備体操して出発。樹林の中の登山道をゆっくり登り進む。この時期、当たり前前に蛭が靴に引っ付き這い上って来る。何匹も剥ぎ取り、除いて進む。明るくなり、開けた稜線の峰辻(四差路)。京都トレイルの案内、比叡山への車道が見える。丁寧な地図と地形の読み方を教えてもらい、北へ稜線登ると横高山山頂。樹林の丘の山頂で、木漏れ日の中、山々、街の眺めあり。北へ稜線進み、水井山山頂。三角点あり、樹林の丘の平坦な山頂で昼食。更に仰木峠(大原への分岐あり)経て進み、展望地で、遠くの山々が見えて、伊吹山など山の同定を楽しむ。少し進むと小野山山頂。樹林の丘の山頂で木漏れ日、風あり。稜線を更に北上して進むと梶山山頂。二等三角点あり、樹林の丘の山頂。木漏れ日が良い。ここから西へ進み、尾根の急坂を下る。倒木等経て、沢沿いの少し荒れた道となり、ゆっくり、岩で滑らないように下る。幾つかの滝を見て最終の音無滝。ここからは、散策、観光の人も増えて、遊歩道を下り、三千院。整理体操後、解散して大原バス停留所へ下る。

○6月4日(土)長崎南1山、中央1山 これで長崎県を踏破し、九州本島も踏破。残るは、鹿児島県南の島々と沖縄県南の西表島等の島の山33山(無人島、活火山、領土問題の島もあり、日程、時間、ジャングル藪、毒へびのハブ等いる島々で、及び腰ながら、今後は、可能なところを時間、季節を確認しながらの長丁場の山歩きの様相)と北海道の15山(無人島の山、入山禁止の山他道のない山もあり、登る季節と体力等含め時間に限りはあるものの、こちらでも可能なところから歩く長丁場の山歩きの様相)で、どちらも飛行機、船等での移動が必須で、かなり時間がかかる見込み(??)。この tea cup の掲示板の最終 R4年7月31日までには、到底間に合わないことをお含み願います。

○「立岩の峰1340m:平成新山1486m は、活火山で噴煙を上げ入山禁止のため、最も近いこの山を持って登ったこととします。」12:45~16:40(3:55)第2吹越トンネル口より往復。整備された遊歩道進み、急坂経て、稜線。方向を南に進み、道の間違いを地元の方に教えてもらい、稜線を北に進み、国見山分岐より東へ下り鞍部より周回ルートで右回りに進む。火山岩の風穴の冷たい風を楽しみながら進む。展望地経て、急坂等登り進むと稜線。北側に平成新山の火山岩の荒々しい山と噴煙も見える。入山立入禁止のため、手前の立岩の峰を山頂とし一息。火山の岩岩の峰が幾つもある山頂。南へ稜線進み、2度目の普賢岳山頂。一等三角点あり、大岩の丘の山頂。平成新山のゴツゴツの火山岩、噴煙等眺め良い。海、街の眺めも良い。岩道を下り鞍部より登り返して国見山分岐。稜線を南下し妙見神社。辺りを散策し、神社より少し戻った登山道より東上へ笹小藪分け登ると稜線で北へ進むとすぐ2度目の妙見山1333m 山頂(日本山岳誌の山)。方位盤ある樹林の丘の山頂。普賢岳、平成新山等の眺め良い。登山道に戻り、下山分岐より、樹林を楽しみながら戻る。

○「長浦岳」20:30~21:15(0:45)林舗道より周回。車で長崎市経て、移動。山

も登山口も不明で、別の配水施設辺りをウロウロして目指す山を確認。暗くなったが、明日は、雨のため、山の位置を確認するも道不明で止むなく、方向を確認して、ライト点けて小藪入り。小藪分けて進むと旧道らしきとテープあり、稜線の小藪分けて南へ進むと長浦岳山頂20:50。一等三角点あり、樹林の丘の山頂。月明かりあり。南に登山道あり、そちらへ進む。川原に下り、小道を進むとキャンプ場への林舗道に出て、北へ舗道を進み、駐車地に戻る。今回は、ここまで。

○5月28日(土)、29日(日) 日本山岳誌以外(7山) 台高山脈 国見山~池小屋山  
テント泊縦走(やまゆき会例会)

○5:28 (1山) 晴れ 大又登山口より明神平 国見山往復。10:25~14:35 (4:10) (水無山1430m)山頂13:40 国見山山頂14:05 土砂崩れでやや狭い大又駐車場は、車約20台位で満杯。止むなく、往来可能な余地確認し林舗道路側帯に駐車し、テント含む重いリュック背負い出発。林道進み、川沿いの道をロープある徒渉を2ヶ所経て、登り進み、明神滝の下で一休み。つづら折れの道をブナ等広葉樹の豊かな森を楽しみながら進む。水場経て、明神平。既に幾つものテントが並ぶ中、風があるため、奥の水場に近い樹林の中でテント設営。昼食後、13:25に国見に向けて出発。急坂1Pの水無山経て、稜線を北上し国見山山頂(平成17年9月17日(土)以来何度めかの山:日本山岳誌の山)。三角点あり、岩ある丘の山頂。登山者1人あり、挨拶。来た道戻り、1Pの水無山の標示確認し明神平に戻り、後は付近の散策(テントは、ピーク時30張程あり)。夕日見て、満点の星のもとテント寝袋で就寝。

○5:29 (6山) 晴れ 明神岳山頂4:55、(笹ヶ峰1367m)同5:20、(千石山1380m)同5:50、(赤嵩山1344m)同7:00、(千里峰1400m)同7:30、(奥ノ平峰1350m)同7:40、(霧降山1360m)同7:50、池小屋山1396m 同8:25 明神平から池小屋山を往復4:25~12:30(8:05)。明神平~大又駐車場13:20~14:40(1:20) 朝明るくなり出発。途中で、オレンジ色の日の出を拝み、稜線を南下し、明神岳山頂(平成17年9月18日(日)以来何度めかの日本山岳誌の山)。稜線の西側急斜面の樹林のピーク。桧塚奥峰の分岐経て、稜線を南下。アップダウンし進むとブナ林が見事な笹ヶ峰山頂。更に南下し稜線を進む。西側に白鬚岳、普賢岳のゴジラの背の稜線を見ながら進み、三角点のある千石山。急坂を下り、鞍部で更に下に水場を見て、登り返して進むと赤嵩山山頂。樹林の丘の山頂。ここで一休みし、軽く食事。なだらかな稜線を進み、平坦なピークの千里峰。淡々と進み、奥ノ平峰経て、日差しが強くなる中、霧降山山頂。樹林の丘の山頂で、宮の谷尾根コース(三重県側)分岐。南側に目指す池小屋山が見える。稜線進むとすぐシロヤシオの花が、この時を待っていてくれたみたいに咲いている。少し狭いかん木の道を足元を確認しながら進み、小屋池湿地経て進むと池小屋山山頂(日本山岳誌の山で、平成17年9月18日(日)、同10月8日以来3度目)。二等三角点あり、樹林の丘の山頂。縦走路と別ルートの2つのルート確認し軽く食事。来た稜線に戻る。途中赤嵩山の先の水場の冷たい水で疲れた体を少しリフレッシュして、稜線を北上する。千石山からは、日帰り含めた登山者に挨拶しつつ、ブナの森を楽しみつつ、明神平のテント場に戻る。昼食、テント撤収してほとんどテントのない明神平を後にして下山。途中水場でゆっくり一息入れて、少し重いリュックを感じながら無事、大又の駐車場に戻る。

○5月21日(土)、22日(日) 鹿児島北1山 晴れ

○「尾岳」5:21 16:30~19:30(3:00) 5:22 7:00~25(0:25)

川内港～下甕島の長浜港 高速船で往復。長浜港より山を往復。寝袋持ち出発。街中から北東へ舗道、県道経て、長浜浄水場バス停より浄水場。伏せられた標示経てコンクリートの坂の階段道を登り進むと貴船観音のある公園で、参拝し、三角点を確認して北へと下り、登り返し進むと県道に出る。舗道を登り進み、林舗道分岐より林舗道を登り、下って進むと尾岳登山道上り兼檜の木見道口の標示より山入。樹林の道を登り進み、第一展望所。港の眺め良い。ここで、寝袋をデポし軽快に登り進むと昭和35年頃の集落跡。散策しつつ、上へとロープ道等登り進むと稜線の4差路。ここから東へと稜線をアップダウンして、整備された道を登り進むと尾岳山頂18:35(第一展望所)。そのまま、北へ稜線進むと第二展望所で、北側に中島、上島の眺め良い。春霞ながら、夕日に輝く絶景を見られて大満足。引き返して第一展望所の尾岳山頂。一等三角点あり、風あり、小鳥の声賑やか。海、島の眺め良い樹林の丘の山頂。ゆっくり休憩したいが、夕方となり、急ぎ下山。来た稜線に戻り、4差路。辺りを確認し、薄暗くなりかけた樹林の歩道を急ぎ足で下る。ロープ道、旧集落跡経て、第一展望所。寝袋を回収し、淡々と下り進み、林舗道の入り口に出る。後は、薄暗い中、来た道辿り、貴船観音経て、長浜浄水場19:30。薄暮となり、奥の登った踊り場(コンクリ)で、今日は終了。軽く食事し、寝袋広げて雲多い星空の下、就寝。

○5:22 7:00～25(0:25) 浄水場で、小鳥の声、半月の月、青空の飛行機雲見ながら起床して、ゆっくり身支度して下山。舗道等散策しながら下り、長浜港に戻る。

今回は、ここまで。車で週末移動する限界距離での山歩きとなった。

○5月7日(土)、8日(日)長崎県西部5山。北海道から関西経て大移動し長崎県五島列島の島の山巡り。

○5:7 五島列島3山 「七ヶ岳」9:20～10:45(1:25)七ヶ岳公園口より往復。案内辿り登り進み、稜線。北西へと樹林、岩稜を登り進みと雨が本降りに。上に雨具付けて進み、程なく七ヶ岳山頂。そのまま縦走コースへ。下って鞍部で雨宿りし先の1Pまで進むが岩稜道は変わらず引き返す。七ヶ岳山頂で、三角点と南側絶壁、岩峰のピークを確認し雨が振り続く中、岩道を慎重に下り戻る。

○「父ヶ岳」11:35～13:55(2:20)南東の林道分岐橋口より往復。雨降り続き、久し振りに上下雨具とスパッツを付けて歩き出す。荒れた林道を進み、倒木、茨等回避しながら進む。河原となり、沢筋の砂利道をテープ辿り登り進む。雨を喜ぶ沢カニが幾匹も顔をだし、時には、ハサミを掲げ威嚇するカニを愉快地眺めながら進む。急坂のガレ場よりトラロープ、太い紺色のロープに助けられ登り進むと山頂の方向案内のある稜線。アップダウンして進み、七ヶ岳からのルートと合流して急坂登ると父ヶ岳山頂12:55。二等三角点ある岩、かん木丘の山頂。雨が上がり小鳥、虫が賑やか。雲を纏う山々の眺め良い。来た道を確認しながら戻る。

○「鬼岳」14:50～15:45(0:55)山頂下駐車場より周回。展望台に登り、丘の斜面登り進むと鬼岳山頂。草原丘陵ピークの平坦な山頂。島々、港、山々の眺め良い。旧噴火口を右回りに進み、反対側に小さい照明設備を確認し鞍部に下る。鞍部より溶岩を確認しながら、草藪の急坂を登り、来た道に戻ると雨降り濡れた草藪を漕いだため膝下がグッショリ。駐車地に急ぎ下り、急いでレンタカーの港に急ぎ返却し何とか高速船に乗船。

○5:8 長崎県五島列島 2山 晴れ

○「番岳」10:25～55(0:30) 林舗道九州自然歩道口より往復。階段の遊歩道進み、



別ルートと合流しコンクリート道、手摺付きを登ると番岳山頂。コンクリート東屋のある丘の山頂。一等三角点あり、晴れて初夏の日差し。風、小鳥の声あり。来た道戻る。

○「山王山」 11:55~12:35(0:40) 登山口駐車場より往復。コンクリート階段を経て、遊歩道登り進むと神社で、その上が山王山山頂。一等三角点あり、一部壊れた木製の展望台あり。島々、海、山々の眺め良い。来た道戻る。この5月GWの山歩きはここまで(知床岳は、山の神様に感謝)。

○5月GW 北海道その2

○5:2 道東1山「武佐岳」 15:00~19:00(2:00) 登山口より往復。雨で待機し遅い出発。曇り一時晴れ 林道を分岐経ながら淡々と登り進む。雨で小川のような道や広い笹、雪原で惑いつつも、登り進み憩清小屋(山頂まで3km)。一息入れ、両側笹の道を急坂、雪面探ししながら登り進み、広い雪原、笹原の大地。テープ等目印見失い、残雪広いつつ西へ進むと夏道に出会い、目印も確認。後は、夏道、残雪を辿り登り進み、晴れた青空に目指す山が見えて、震い立つ。8合目の急坂手前で山容を確認し、新雪が登るに従い深くなる夏道を一步ずつゆっくり急坂を登り進む。稜線近くで迷うも、高い方へと深く湿った軟雪に足を取られながら北へ登り進み武佐岳山頂 17:25。三角点、大岩ある丘の山頂。曇りで風あり、雪含め白い世界。時間が遅くなり、帰りは、気持ちは急ぐも急坂を少し滑りつつ下り、緩やかになると、夏道を急ぎ足で下る。小屋手前の笹雪原で惑うも、小屋の様子を確認しつつ、軽快に下り進み林道。長く感じつつも登山口に薄暮に到着。手前の畑は雲で、その先に街明かりがキレイに見えて疲れが飛んだ。

○5:3 道東1山 「北見富士」 6:45~10:35(3:50) 曇り R39沿いの登山口より往復。荒れた道らしきを進み、旧林道の倒木地帯を迂回しながら進み、沢の崩壊地を下に下り小川越えて進み、旧林道終点。上へ登ると旧作業道に背丈以上の小マツが群生。分けながら登り進み、沢筋経て、幾つもの旧作業道の交錯地点。目印なく、上へ上へと登り進み、右からの尾根に出る。尾根を北へ苔地帯、旧作業道を横切り、登り進む。急坂の倒木地帯となり、茨も出て右往左往しながら登るとピークテープあり、その上にも一つあり登り進むと北見富士山頂 9:05。二等三角点あり、樹林の丘の山頂。曇り、別の本ルートのテープ確認して下山。倒木地帯を回避し軽快に略来た道戻って登山口。その後で車の振動でか、ダニが5、6匹出て、タオルにも付いていてびっくり(この時期に?)。

○5:4 道東1山 曇り 雨で待機しながら、今回は行けない3ヶ所の山の登山口を確認後に遅い出発。

○「チトカニウシ山」 12:15~17:05(4:50) 北見峠口より往復。雪の稜線をアップダウンしながら、テープ辿り、電波塔、反射板3つの1P。下って行く途中、ヒグマの大きな雪足跡が稜線を横切っているのを確認。広い樹林の雪原をテープ等探しながら進む。急坂となり目印不明となるも、右上(北)へと急坂を登り進む。大木の下で一息入れ、雲で視界が狭くなる中、右斜め上へと急坂を登り進む。稜線末端に出て、広い雪原を右往左往しつつも、北へ進む。急坂雪面進むとハイマツ地帯となり、足が膝近くまで潜る。やむ無く、ハイマツの上に乗りながら、バランスをとりつつ進み、ハイマツ帯を脱出。上の雪面は、固雪で歩き易いが、風が強くなってきた。登り進むと、再びハイマツが現れ、腿近くまで、新雪が潜るも進み、チトカニウシ山山頂 15:10。三角点表柱ある、ハイマツの丘の山頂。新雪60cm位あり、雲と風あり、すぐ来た道を雪足跡を探しながら下る。電波塔丘で安堵するも、末端の方向を間違え、トラバースし来た道に復帰し北見峠に無事戻

る。

○5:5 道央2山 晴れ「浜益御殿(増毛山道)」山頂7:10、「浜益岳」同8:40 4:50~12:00(7:10)林舗道残雪で一般車通行できない地点より往復。今回の第2のハイライト。残雪に車が嵌まり、脱出できない車のアクセルをふかし少し脱出の手助けをしてお先にと出発。林道進み、奥の分岐までピンクテープあるが、なくなった左への道を進む。衣服調整の方に挨拶し、先に進む残雪の林道は、方向が違うみたいで、右の雪面続くところより残雪広い上の丘へ。1Pに出るとピンクテープ復活し安堵。後ろから先の2人らしきが話しながら、追ってくる(一度振り返り手を振る)。広い雪面に下り、増毛山道の案内、テープ等確認しながら、固雪の樹林の坂を軽快に(固いうちにの思いで)、急ぎ足で進む。稜線に出て眺めが良い中も、残雪を拾いルートを探しながら淡々と登り進み浜益御殿山頂。平坦な雪原の山頂で、出た岩に腰掛ける。直ぐ後ろの2人が追いついて到着。挨拶し山話。浜益岳、雄冬岳、西に日本海、遙か南方に雪被る積丹半島の山々が見える。2人が先に楽しむように雪原をかけ下るのを眺めつつ、ゆっくりその足跡を追う。1ヶ所薄い笹を分けたが、後は雪面をアップダウンしながら進む。急坂登ると浜益岳下の広い雪原。次に目指す群別岳の勇姿が、目蓋に焼き付く。いつになるかわからないが行きたい、行かねば。急坂の雪面をゆっくり登り進むと先行の2人が譲るように、日焼け止め、給水で立ち止まる中、脇を抜け進み、浜益岳山頂。灌木の柔雪で腿まで嵌まる丘の山頂。群別岳等の山々の眺め良い。風強く、後から来た2人と風を避け東向きに並び昼食、山話。下りも別々に下って行く。こちらがトップで後から後から、久しぶりの好天で、登山者、山スキーの人が大勢登って来ており、挨拶し時折長話しながら来た道をテープ、雪足跡を探しながら下る。雪はかなり解けて登り憎そう。平坦地に出てキタキツネがゆっくり歩いている。一瞬止まり静かに倒木先に飛びおり補食。じっと撮影でもするかのように眺めていた。1Pに戻り、テープを辿り雪面を拾いながら下り、テープを追いすぎて最後は、笹藪を右往左往しながらかき分け下り、最初の林道分岐のテープに出る。確かに今の時期テープは藪の中を実感。駐車する車を横目に駐車地に戻る。このGWの遠征は、ここまで。

○4月30日(土)~5月5日(木) 再開の北海道シリーズ 道東5山、道央2山

その1

○4:30 「伝説のハイカー編」知床岳山頂11:55 晴れ 4:05~17:15(13:10) 相泊港口より往復。前日下見したカモイウンベ川まで、登山靴で、海岸線の砂利道歩き。徒渉のため、ピン付き長靴に素足で、履き替え。ショートスパッツつけ、ストック使いつつ、10m幅の緩やかなところを膝上まで川に入りつつ、徒渉。直ぐ長靴に水が入り、そのまま、笹等の道の急坂を登り上の平坦地に出て、靴の水をかきだし、靴下を履くもすぐぐっしょりで、靴下を絞る。やむ無くそのまま履いて、樹林の中の堅めの雪上を川の左岸を軽快に登り進む。前面の山容を見ながら進み、雪の覆う沢を幾つか経て、急坂の尾根に取り付く。樹林の中の尾根をゆっくり登り進み、時折帰りの目印にと落ち枝を立てて登り進む。東(右)に1Pを見ながら登り進み、その1Pからの合流点を確認し、登って行く。登り進むと前面に巨大な岩塊が立ち塞がる。右は、雪面が切れ落ちるように急で、左へと進む。こちらも同様で先に進むとすぐ左側が切れ落ちるような急斜面。進むしかないため、固い雪面に手を焼きながらも右側の巨大な岩塊脇の樹林、笹等を支えに慎重に雪面にへばりつくように登り進む。何とか上部に出て小藪抜けると雪面で、淡々と登り進む。再び上方の右側が、岩壁で、進めないため、左のハイマツ藪突入し、程なく左の雪面に出

る。上の踊り場に出て、ここから上は、左は、急坂の雪面で登るとのが難しそうでやむ無く右のハイマツの樹林帯の藪に突入。ストック、大きなリュックが、邪魔で、何度も諦めかけて、遂にストックをリュックサックにしまいながら、失せ物に気付き、外に出てるのは、全てリュックにしまい本格的にハイマツ藪に挑む。リュックがハイマツの枝に挟まり、中々進まないが、登り進む。再び右の雪面に出て、急斜面を獣道らしき跡を辿り、上に出るとやっと休める空間。一息入れ辺りの急な斜面と遥か先の景観を確かめる。右側が絶壁の間隙をハイマツ藪を避けるように進み、再びハイマツ藪に突入。ハイマツ帯のピーク過ぎてハイマツ上に乗りながら下って先の雪面に出る。風が出てきて、先に目指す山が見える。雪面を拾い、下りのハイマツ帯に再び苦戦しつつも、再び雪面に出て雪面を拾いつつ、大雪原に下る。冷たい強風で体が冷える。防寒して、広い急坂の雪面を登り進む。稜線に出ると更に北からの冷たい強風。稜線の氷の雪面がガチガチで、頭も寒さで麻痺しそう。左のハイマツ藪に逃れて一息。そのままハイマツ藪をゆっくり進む。幾つかのピーク経て、知床岳の山頂。一等三角点あり、ハイマツ樹林の丘の山頂。晴れているが、風が強い。西に硫黄岳等の雪を被る山々の大絶景。右下にオホーツクの荒い波の海岸線。遊覧船遭難近辺で合掌。来た道を確認しながら、大雪原、ハイマツ帯のピークより、雪面を求めて下り、途中からハイマツ藪に戻り左側の際に出ると急坂で慎重に下ると登りの休憩地。一息入れ獣道らしきの左側急斜面の雪面をトラバースして下り、雪面拾いつつ下る。ハイマツ藪経て、雪面を下ると広い急坂の大雪面。スキーがあれば、何とか下れそうな斜度40度位。真ん中を進み、滑落すると遥か下には、雪の巨大なブロックが雪崩落ち砕けているところ見える。やむ無く左の樹林に掴まりながらゆっくり下る。腰が引けてか靴下の雪が流れて滑り出す。直ぐ左の木に手をかけ、留まり、ゆっくりと体勢を立て直す。何が起き、どうして木にしがみつけたか説明困難。まだ先に下らねば。左の樹林の伝いでは、広い急斜面のトラバースとなり難しい。中央下に雪の段差確認でき、そこへ行くには、右側の木、笹地帯まで右へ急雪面を横切り、下ることが必要。何とか上部までトラバースし30m位の急雪面下り開始。途中で下に雪解け溜まりを確認し、下るとここも足元が滑り、5m位滑って下の雪解溜まりに両足で無事転げることなく着地。2度目の冷や汗。後は、登山者の踏み後らしきに慎重にとり付き、ざらめ雪で滑らないようゆっくり慎重にトラバース。登って来たルートに合流し安堵。ハイマツ藪経て、雪面に出て下り、下って行くと見慣れない光景。急坂の10m位下に巨大岩塊沿いに解けた雪がホールのように口を開けている。岩伝いに下れそうと考え、先にストックをホールに投げ落とし、両手、両足を岩にかけて、一歩ずつゆっくり垂直の岩を下り、飛ぶことなく着地。大岩塊際の狭い雪面づたいに右へ進み、広い雪面に出る。ここが、最初の大岩壁と確認。後は来た雪道を確認しながら下り、平坦地に出て安堵。疲れと思いリュックの重みを感じながら下り、そのまま徒渉。下りも長靴は、グッショリで、靴下を絞り、登山靴を素足で履き替え海岸線から北方四島を眺めつつ無事戻る。

○5:1「標津岳」7:05~12:50(5:45)曇り 林道途中で残雪で一般車進めず、そこから往復。林道を進み、坂を登ると登山口。入林届けを書き出発。手袋を2度落とし、2度引き返す。樹林の雪道進み、道分岐で左に山案内あり(山頂まで6km)。そのまま直進して行く。左に沢の音を聞きながら左岸の雪上を進む。笹等分け進むも進めなくなり、左の沢へ下り、3m幅の沢を難なく徒渉し、道らしきを探して、北へと登り進む。上の林道に出て、方向が違う方へ進むため、そこから北へと雪面を拾いながら登り進む。1Pに出

ると笹原で、北へ雪面探し進み、程なく雪面に出てゆっくりと樹林の中の雪面を登り進む。急斜面の麓近くで、獣の匂いあり、笛を吹きつつ進む。麓より、急坂の雪面で、木、笹等に掴まりながら、ゆっくり、ゆっくりと登り進む。緩やかになり、稜線末端。右側の下が急斜面の雪面を辿り、登り進む。笹等進めない地点から左の灌木藪突入。ストックデポも考えたが、そのまま持ち歩く。左先に空間あり、そちらに進むと夏道の本道ですぐ9合目の木の表示。夏道を淡々と登り進み、広い雪面を登ると標津岳山頂。丸木の山頂表示あり、ハイマツ樹林の平坦な山頂10:30。曇りで冷たい強風。オホーツクの海岸線、山々、平坦な大地の眺め良い。来た道を引き返す。夏道は、方向違うため、途中から引き返し、薄いハイマツ藪抜けて来た雪面に出て下り稜線末端。先に空間あり、確認すると8合目表示。夏道で、下ろうとしたが、道不明で中止。

来た道急斜面の雪面を下り、1Pの笹は、少し左を迂回し雪面に出て、後は林道経て、徒渉し下の道に出て、登山口で下山時刻記載し戻る。

○4月16日(土)、17日(日) 長崎県対馬5山(2山)

○4:16 長崎 対馬 4山(2山) 晴れ

○(清水山210m)山頂6:00、「有明山」同6:55 5:30~7:55(2:25)巖原港フェリー乗り場より道探して街中住宅地奥の登山口より往復。レンタカー借りるまで時間あり、登山口探し住宅地の急坂を登り、登山口より山入。整備された急坂の遊歩道を三の丸経て、二の丸。明るくなり、荷物のリュックサックのパッキングのし直し。38リットルのリュックがパンパンながら1つに収まり、着替えもして準備完了して少し重いリュックを担ぎ本格的に始動。岩道等の坂を登り進み、一の丸の城跡経て1Pの清水山山頂。オレンジ色の朝日、港、街の眺め楽しむ。少し下ると本道に合流。距離、高度標示に助けられながらゆっくりと登り進むと有川山山頂。一等三角点あり、細長い丘の山頂。晴れて風あり、小鳥の声聞こえのどか。山々、海の眺め良い。西奥まで散策し、北に岩山(白岳)見て引き返し来た道戻る。

○「御岳」山頂11:15、(平ヒラ岳458m)同12:00 10:25~13:10(2:45)レンタカー借りて北へ島を移動し鳥居ある登山口より往復。整備された道を距離、標高標示見ながら、沢沿いの道から登り進み、稜線の分岐。山頂への標示に従い東へと進み、急坂経て御岳山頂。大岩、幾つもの祠のある丘の山頂。晴天で、小鳥の声、風あり。次へとトライ。稜線鞍部に戻り、西へと稜線進む。倒木等で、道が不明ながらもアップダウンして進む。距離標示出て少し安堵しつつ進み、別ルートの下り手前より、そのまま稜線を西へ進むと平岳山頂。一等三角点あり、樹林の平坦な山頂。山々の眺めあり。来た道の稜線を確認しながら分岐の鞍部に戻り、階段等の道を下り戻る。

○「洲藻白岳」山頂16:10 15:00~17:15(2:15)洲藻登山口より往復。沢沿いに進み、南へ登り進むと鳥居ある分岐。岩ガレの道を登り進むと下りの家族連れに会い挨拶。向こうは、ここで人に会うとはと驚きの様子。その辺りから急坂となり、ロープ等ある岩道をゆっくりと慎重に登り進む。進むと祠ある広場に出て、テラスの案内あるも構わず、左の急坂へ。借りた杖を置き、ロープある急坂を木、岩等手と足場を確認しつつ、緊張感を持ってゆっくりと登り進む。大岩峰の間の鞍部に出ると祠が幾つかある。右へは、進めず、左へ道を辿り急坂をゆっくり登り進む。大岩峰の下の岩場に出て南へは、進めず、西へと、ロープもない急な岩盤を岩を確実に、掴めないが、手掛かり、足掛かりを確認し緊張しながら登り、岩にへばりつくように進む。細く狭い岩棚を西の絶壁は、気にせず

に、右の岩壁を掴みながら右回りに上へ登り進み、上の岩峰に出ると大岩峰上部の平坦な白岳山頂。山々、港の眺めが良い。北の尖塔岩、南の山の連なりの展望を楽しむ。一息入れるも、絶壁の上で、少し足が震え緊張する。登って来た岩の道を慎重にゆっくり確認しながら下り、鞍部。更に急坂を慎重に下り広場より北の岩テラスに出て、展望確認し広場に戻り、急坂のロープ、岩道を慎重に下り、来た道に戻る。かなり緊張した山歩きとなった。

○「矢立山」19:00~19:35(0:35)林舗道登山口より往復。何とか登山口に明るいうちに車で辿りつき山歩き。舗道からおぼろ満月を見ながら、夕闇迫る樹林の中を急ぎ足で、北へと登り進む。稜線に出て、緩やかな尾根を西へ登り進むと矢立山山頂。伐採後整備された樹林の丘の山頂。三角点あり、街と月明かり、夕焼けがキレイ。山々、海の眺めあり。薄暗くなり、ライトを点けて、来た道を確認しながら戻り、登山口で、明るい満月に迎えられる。

○4:17 長崎対馬1山 晴れ

○「龍良タテラ山」山頂7:00 5:45~8:30(2:45) 自然公園の広い駐車場より往復。昨晚遅くに道を確認したので、林道進み、道分岐等経て登山口。保護されている原生林の巨木等の森をテープ等案内に従い行ったり、来たりしながら登り進む。植林地からトラバース道経て登ると三差路分岐。東へと稜線尾根の岩岩と樹林の急坂をゆっくり足元を確認しながら登り進む。大岩塊に出て、イタチを見かけ、岩の上へ出ると展望が開け、樹林の奥に進むとすぐ龍良山山頂。二等三角点ある岩塊の上の樹林の山頂。椿、ツツジの花あり、朝日があり、快晴で、小鳥、ハチの音のみで静か。別天地にいるよう。山々の眺めあり。大岩塊から海、山、集落の大展望を楽しみ、来た道に戻る。原生林の森と沢水を楽しむ。林道からツシマヤマネコの保護、育成施設、自然公園を散策して戻る。今回は、ここまで。天候に恵まれ、一度に、対馬の山々巡り、街の散策ができて大満足。

○3月26日(土)、27日(日) 長崎北6山(3山) これで九州本島は、島しょを除き残り2山で、あとは、天候、時間見ての長期戦の山歩きの様相。

○3:26 長崎北5山(1山) 雨のち曇り

○「隠居カクイ岳」14:40~16:50(2:10)林舗道登山口より往復。地図読みが甘く、反対方向の山から遊歩道歩きし間違いに気づき遊歩道に戻り舗道に出て、舗道分岐近くで、山案内見かけて、車で通りかかった地元の方に登山口を教えてもらい進み、登山口。時間30分以上ロス。水管が上を横切る登山口より整備された登山道を進む。陸軍標石経て、登り進むと隠居岳山頂。広場の三角点ある山頂。曇りで、風が強い。木場山へ縦走を試みるが、下りが続き、パラ雨降りだしてそのまま引き返して戻る。

○「木場山」17:10~40(0:30)自然歩道登山口より往復。旧林道を登り進み、ピークより右に小藪分け進むと木場山山頂。三角点あり、樹林の丘の山頂。曇りで、風あり。来た道戻る。

○「烏帽子岳」17:50~18:15(0:25)公園駐車場より往復。西へ整備された道を進むと烏帽子岳山頂。大岩、大権現、三角点等ある丘の山頂。曇りで、風あり、白い世界。小さい狸見かける。来た道戻る。

○「弓張岳」19:30~20:10(0:40)車で山頂下まで行きライト点けて散策。佐世保の夜景、港等の展望と景観を楽しむ。

○(但馬岳385m)山頂20:20、「将冠岳」同21:25 20:15~22:25(2:10)

車で少し移動し但馬公園駐車場より往復。夜間であるがトライ。北へ稜線進むとすぐ公園広場の但馬岳山頂。そのまま北へ急坂、ロープ道を下り、但馬越。林舗道三差路より北へ急坂の階段登ると神社で参拝し、下りとなり反射板経て、林道。そのまま北へ進むが、表示なく緩やかな道のため、引き返し東へ下るとすぐ林舗道に合流し北へと下り進む。程なく、左に鳥居のある将冠岳登山口。神社参拝し、細いつづら折れの道をテープ等辿り登り進むと上の神社で、参拝。更に急坂等登り進むと将冠岳山頂 21:25。二等三角点あり、大岩が並ぶ樹林の丘の山頂。佐世保の夜景の眺めが良い。風あり、来た道戻り、登山口より舗道を南へ登り進み、但馬越より急坂経て、但馬岳。そのまま下り、遅くなったが無事戻る。

○3:27 長崎北1山(2山) 晴れ

○「大観山」6:20~50(0:30)林舗道駐車地より往復。石畳の道を登り進み、稜線。階段の見える左へ登ると天狗岩。展望良い。鞍部に戻り、南へ登り進むと大観山山頂。二等三角点あり、樹林、岩の荒れた平坦な山頂。風、小鳥の声あり、朝日を拝みつつ戻る。

○(長串山)7:00~30(0:30)ツツジ公園駐車場より往復。公園の中を抜けて、登り進み、一部早咲きのピンクのツツジが迎えてくれる。尾根に出て、急坂を登り進むと長串山山頂。三角点あり、神社ある丘の山頂。桜が咲き、九十九島の眺めと共に絵になる風景。海、港、九十九島の大景観を楽しみ戻る。

○(冷水岳)7:45~8:15(0:30)公園駐車場より散策。登山道案内辿り、冷水岳山頂。公園、九十九島、海岸線、集落の眺め良い。公園内散策し展望台より九十九島八景の1つを確認。公園、山々、九十九島等朝日に照らされた大景観を楽しみ戻る。今回はここまで。

○3月19日(土)~21日(月) 宮崎南1山(1山)、宮崎北1山、大分南1山、長崎中央2山 計5山(1山) これで残っていた懸案の山々を一気に歩き、宮崎県、熊本県、大分県の3県を踏破。新日本山岳誌の残りは、北海道23山(島しょ1山)、長崎県18山(うち島しょ10山)、鹿児島県全て島しょ22山、沖縄県の西表島4山の合計67山で、島しょ合計37山は、天候、アプローチ等で、日程を組むのが難しく、折り見てのアプローチで、いつになるか読めない部分あり。取り敢えず、当面は、島しょ以外の歩ける所を目指し、島しょも連休等を睨みトライしますので、今暫くお付き合い願います。ただ、この掲示板が、今年7月末で、終了となるため、皆様にご報告できる時間は、あとわずかとなりますが、可能な範囲で、出来るだけ多くの山歩きを掲載したいと思えます。本題へ。

○3:19 宮崎南1山(1山) 曇り (獅子戸岳1429m)山頂18:30、「新燃岳1421m」同18:30 15:55~21:50(5:55) 韓国岳登山口より往復。新燃岳は、火山活動中で、火口から1km進入禁止のため、最も近い山に登ったことで現時点では仮に登ったこととします。天候が、雨で、強風も吹いている中、雨が小降りから止み、強風の中、トライ。韓国岳登山口より、登り進むと1人下山者に挨拶。距離と方向案内の表示柱等辿り、登り進む。ザレ場等火山岩の道を登り進み避難小屋。一息入れて、再び強風の中、登り進む2度目の韓国岳山頂。一等三角点を確認。これからが本番で、山の稜線を東へ進み、稜線の端より南東へザレ場を下る。案内柱、テープ等確認しながらゆっくり下り、樹林帯の中を幾つかの沢筋を横切り下り、平坦な樹林帯を抜けると展望が開ける。同時に強風が吹き付ける。鞍部より強風に吹き飛ばされないようゆっくり風を遮るものもないザレ場の道を進む。灌木の樹林帯に入り、風の影響をあまり受けず登り進むと灌木のピークの獅子戸

岳山頂。強風の中、付近のツツジの小藪を散策。更に奥に下ると入山禁止場所で、遙か先に新燃岳が見えて仕方なく、満足。強風で、メモを書くこともままならない中、日没間近となり急ぎ足で、来た道に戻る。雲が切れて韓国岳の勇姿がまぶしい。鞍部より登り返す途中暗くなり明かりを点けて、オレンジ色の満月に助けられながら、樹林帯、急坂を登り、稜線の岩道を登り進み、強風がまともに吹き付ける中、韓国岳山頂。風強く、休める状況でないため、すぐ下る。霧が出て、眼鏡も曇り、足元が見えにくい中、岩道の段差に時折戸惑いつつも、ゆっくり、ゆっくり時間をかけて下る。避難小屋で、一息入れて、再びザレ場の岩道を足元を確認しながら下って行く。強風も少なくなった樹林帯を抜けると登山口。舗道経て、遅くなったが、ホテルの明かり等見える駐車地に無事戻り安堵。

○3:20 宮崎北1山、大分南1山 晴れのち曇り

○「筒ガ岳」9:40~12:15(2:35) 北側林道途中より往復。林道進み、分岐で、山の案内表示で、右へ。すぐコンクリートの林道で、車で入れたかなと悔やみつつ登り進み、林道から植林地の作業道となり登り進み、途中より境界の尾根に取り付く。境界の表示、幾つかの作業道分岐、保護ネット等の尾根を登り進むと再び林道に出合う。上へと荒れた林道を登り進む。山への道か不安になる頃山の案内表示出て淡々と登り進み、旧林道終点の登山口。沢を横切り、植林地の防護ネットを3カ所開け閉めしながら、登り進み、急坂経て稜線。西へ1P経、下り、大きな岩塊。アルミ製の梯子2つ経て、岩の上に出て更に灌木の道を登ると筒ガ岳山頂11:00。灌木の岩峰の上の丘の山頂。晴れて、阿蘇連峰、少し雪化粧した祖母連山等の山々、集落の大展望を楽しむ。陽射しが心地よい中、冷たい春風。来た道を確認しながら戻る。

○「大障子岩」13:20~17:45(4:25)八丁越駐車場より往復。八丁越の案内表示、テープ等辿り植林地、沢を幾つも南東に巻いて登り進む。滝に出て、沢筋から上へと直登道となり、ゆっくり登り進み、稜線が見えて、左斜めに木も少ない急坂道を登り進むと八丁越。祖母と南奥の尾平への分岐で、東へと稜線を進む。急坂の細い岩等の尾根を左から巻くが、北面が、遙か下まで見下ろせる急斜面で、岩、木等にしがみつくように慎重に登り進み、岩稜を登り進むと1P。大障子の岩峰が眼前に仁王立ち。急坂を慎重に下り、巨大な岩峰を登れるか不安視しながら、案内を辿る。右より回り込み、急坂経て、登り進むと大障子岩山頂15:50。樹林の丘の山頂で、祖母山系等の山々、集落の眺めが良い。曇りの中、陽光、わずかな風音のみで、静か。来た道を急斜面等を慎重に下り、八丁越。後は、ゆっくり道を確認しながら戻る。

○3:21 長崎中央2山 曇り

○「熊ガ峰」8:00~9:00(1:00)西側の大山配水施設下より往復。長崎の街を探し回りようやく登山口らしき。駐車地なく、仮駐車し急ぎ足で、配水施設へのコンクリートの急坂登り、施設の脇を経て、上の竹林へ。テープ等に助けられ、急坂登ると稜線。アップダウンしながら南へ稜線を登り進む。二重の道経て、左に作業道を見ながら進み、急坂を息を切らせながら喘ぎ登り進むと熊ガ峰山頂。樹林の稜線ピークの山頂で、山々の展望が少し、風も少しあり、船の音が聞こえ静か。来た道を急ぎ足で、戻る。

○「八郎岳」山頂10:35 9:15~12:10(2:55) 北側林道登山口より往復。登山口よりすぐ稜線。南へ進み、急坂を登ると右に小山あり、表示案内見ると熊ガ峰の様。そのまま南へと稜線を林道を左に見ながらアップダウンし進む。電波塔経て、下り林舗道横切る。電線作業中で、挨拶して通過し新しい電波塔を右に見て登り進むと八郎岳山頂。

一等三角点、天測点ある広場の丘の山頂。大展望:長崎の街、海、島、海岸線、山々の眺めが最高。風あり、近くにすぐ行ける山あるが、時間の制約で、断念し来た道戻る。熊ガ峰への分岐の登り手前で、林道歩き。もう1つの山目指すが、距離あり、断念し、林道ピークより北へ淡々と林道を下り駐車地に戻るとトレランの人に出会い挨拶。今回はここまで。

○3月12日(土)、13日(日) 福岡西5山(1山)、広島中央(1山) これで福岡県を踏破。

○3:12 福岡西5山(1山) 晴れ

○「二丈岳」10:55~12:20(1:25)木の香キャンプ場より往復。林舗道等登り進み、別ルートと合流し急坂等登り進むと二丈岳山頂。二條城址と大岩群の山頂で、玄界灘、山々の眺め良い。身近な山で、登山者多い。春の陽気で、暖かく半袖シャツで、山歩きし来た道戻る。

○「可也山」13:40~15:05(1:25)。東側林道ゲートより往復。林道進み、急坂、コンクリート道等登り進むと別ルートと合流し北へ登り進む。神社を参拝し電波塔経て進むと可也山山頂。三角点ある樹林の丘の山頂。北へ進み、展望地より、玄界灘、福岡市街、山々の展望楽しむ。ここも身近で、登山者多い。来た道戻る。

○「叶岳」山頂16:35、(高地山419m)同17:00、「高祖タカス山」同17:50 16:00~18:50(2:50)叶嶽神社駐車場より周回。遅い出発で、急ぎ足で、神社の鳥居を幾つか潜り、急坂、階段等経て奥の神社。参拝して、その西奥が叶嶽山頂。椅子、テーブルのある樹林の丘の山頂。春風爽やかで、街、山々の眺め良い。次へと稜線を西へアップダウンし進み、急坂経て高地山山頂。三角点ある樹林の稜線のピークで、西側に山々、集落の眺め良い。稜線を西から北へと下り進み、鞍部より、野外センターへの三差路分岐を2つ経て、急坂、トラバース道経て、広場に出て、南へ稜線を登り返すと高祖山山頂。樹林の城跡の広場の山頂。辺りを歩き回り、2度目に山頂に出ると夕日が、西の海に反射し輝いて、すごくキレイ。来た道戻り、2つ目の野外センターへの三差路を東へ下る。沢沿いの道を慎重に急ぎ足で下る。緩やかな道となり進むと高祖山の登山口の野外センター。舗道を下り、薄暮に駐車地に戻る。

○「油山」20:10~22:45(2:35)片江展望台より往復。夜なのに福岡の夜景を見るため、車が狭い駐車地を行き交い慌ただしい。明日も同様と思われやむ無く、すぐ近くの登山口より夜間登山。登山口より、ライト点けて、道が不明ながら、溝地から尾根に出て、反射板のある妙見望経て別ルートと合流。半月の月明かりに助けられて、稜線を登り進む。途中幾つもの三差路で、距離と方向を確認して進む。中程を過ぎて1Pに二等三角点あり、樹林の丘のピーク。さらに南へ緩やかな稜線をアップダウンして登り進むと油山山頂21:30。樹林の丘の山頂で、北側に福岡の夜景が、キレイに見える。春風あり、登りは、半袖シャツで、下りは、上に1枚着て、半月の月明かりに助けられながら戻る。片江展望台より間近に福岡の夜景を楽しむ。

○3:13 日本山岳誌以外 広島中央(1山) 曇り

○(黄金山221.7m)11:55~12:25(0:30)車で、R2号を通る度に気になっていた山で、山頂下まで車で行き散策。一部桜が見頃で、展望台(一の丸跡)、電波塔(二の丸跡)等散策。広島市街、川、橋、海等の大展望を楽しむ。今回はここまで。

○3月6日(日)日本山岳誌以外 和歌山中央(2山) 晴れ

○(雲雀山201m)山頂13:00、(白上山184m)同14:15 12:40~15:20



(2:40) 稲荷神社口より周回。舗道を西へ進むとすぐ雲雀山登山口。左に満開の梅園を見て、急坂を登り、稜線。畑や樹林の稜線をゆっくり登り進み、急坂経て、雲雀山:伊藤ヶ嶽山頂。樹林の丘の白山権現の祠のある山頂で、有田市街、川、山々の眺め良く、晴れて風強い。辺りを散策し西奥へと稜線を進む。農舗道をアップダウンしながら、途中、辺りのみかん畑への灌漑用の大きな給水タンク2つと2つの峠経て進む。鹿打坂峠の祠より上へ舗道登り進むと河津桜が満開で見頃。花見の地元の方に挨拶し奥の神社を参拝。稜線へ戻り、さらに農舗道を西へ進み、細い歩道経て、別の農舗道に出て、下って登り返し、右に旋回して登り進む。舗道終点より右に細い道を進むと行場史跡手前のピークが白上山山頂。小藪の樹林の丘の山頂で、三角点があり、晴れて風あり。近くの展望地より山々、街、海、島の眺め良い。来た稜線に戻り、途中の糸我峠より熊野古道を北へ下る。街道案内等経て、急坂舗道をみかん畑を見ながら下り、駐車地に戻る。

○2月26日(土)27日(日)福岡南3山(3山) 晴れ

○2:26 晴れ 福岡南2山(3山)

○(カラ迫岳1006m)13:45~15:35(1:50)山口集落登山口より往復。後で日本山岳誌以外の山と気付く。沢沿いの道を辿り岩道等登り進むと幻の滝で、氷瀑が見事。旧金採掘跡等経て、登り進むと稜線三差路。国境石群の稜線の境界を北へ進む。急坂経てカラ迫岳山頂14:35。岩のある丘の山頂で、山々の眺め良い。晴れて、日差しが温かく、そよ風と小鳥の声聞こえて静か。来た稜線、三差路、幻の滝の氷瀑楽しみ戻る。

○「鷹取山」17:00~25(0:25)耳納スカイライン舗道陥没地より往復。陥没地を左に迂回してテープ等辿り陥没の先へ。後は、東からの舗道と合流し三差路の舗道を左へ登り進み、丘に登ると鷹取山山頂17:05。一等三角点ある芝生の広場の城跡の山頂。晴れて風が冷たい。北側に街の眺め、南側に山々の眺め良い。来た道戻る。後は、耳納スカイラインを車で、西へと走らせて山巡り。

○(発心山698m)17:45~55(0:10)耳納スカイライン登山口より往復。小山の丘に登ると発心山山頂。二等三角点ある樹林の丘の城跡の山頂。すぐ戻る。

○(耳納山368m)18:10~25(0:15)耳納スカイライン登山口より往復。植林地の道を西へ登り進むと耳納山山頂。三角点あり、樹林の丘の山頂。日没となり、冬風あり。すぐ戻る。

○「高良コウラ山312m」18:45~19:00(0:15)耳納スカイラインつつじ公園鳥居口より往復。暗くなる中、公園に登り、東へ登り進むと高良山山頂。一等三角点ある樹林の丘の山頂で、街明かりがキレイ。ライトを点けてゆっくり戻る。

○2:17 福岡南1山 晴れ

○「鳥屋山」7:20~9:25(2:05) 旧キャンプ場口駐車場より往復。コンクリート舗装された沢沿いの道を大水でえぐられたり、倒木の多い(朝倉市)被害の爪痕を確認しな柄登り進と旧キャンプ場。トイレが底を削られ大きく傾き、コンクリート道もかなりえぐられている。神社奥の左に山の案内が見えて辿り登り進む。岩稜の痩せ急坂の岩道を鎖等辿り登り進むと上の稜線。合目表示辿り登り進み、8合目の急坂岩の細い鎖つき道登り、南へ進むと鳥居のある鳥屋山山頂8:10。神社、三角点ある樹林の丘の山頂。山々、集落の眺め良い。晴れて、小鳥の声、冬風が心地良い。奥の院まで稜線を進み、石の祠を参拝し来た道も戻る。駐車地で、3台の車の登山者に会い、人気のある山の模様。今回はここまで。

○2月23日(水)祝日 日本山岳誌以外 和歌山中央(2山) 曇り

○(長者ヶ峰)山頂13:15、(飯盛山538m)同13:50 12:55~14:40(1:45)白馬林舗道ピーク近く(林道起点より約6km)より往復。植林ネット開けてススキ等繁る旧作業道を北へ登り進み稜線。東へススキ等の小藪の稜線をかき分け登り進むと再び植林ネットで、越えて境界標ある稜線となり道が出てくる。東へ登り進むと長者ヶ峰山頂。樹林の丘の山頂で、二等三角点あり。北側に風力発電と山々の眺め良い。曇りで、冷たい冬風少し。稜線を東へ下ってアップダウンしながら進むと飯盛山山頂。樹林の丘の山頂で、ポスト2つあり。上空に冬風音ある曇りで、来た稜線に戻る。凍る土の急坂経て、長者ヶ峰。さらにネット越えて、小藪分け下って以外と早く戻る。

○2月20日(日)晴れ 日本山岳誌以外 和歌山北(2山)

○(熊尾寺山)12:30~13:05(0:45)雨の森公園駐車場より往復。階段の遊歩道道等を登り進み、稜線分岐。東へと緩やか道を登り進むと熊尾寺山山頂。二等三角点あり、樹林の稜線ピークの山頂。晴れて風音あり。来た道戻る。

○(黒沢山)14:10~14:55(0:45)展望レストハウス駐車場より往復。山を確認し道不明だが、樹林の中を下り、ゴルフ場を横切り、樹林の獣道等登り進み、稜線に出て、北へ登り進むと本道に出合い、稜線を西へ登り進むと黒沢山山頂。三角点ある樹林の丘の山頂。冬風強い晴れで、下りで、南方に雪を被る生石ヶ峰の連峰の眺め良い。来た道に戻る。雨と寒波のため、今回はこれだけ。

○2月10日~12日 その2

○2:12 大分西2山、熊本北2山 晴れ時々曇り

○「亀石山」6:40~7:40(1:00) 亀石峠より往復。明るくなり林舗道を右に牧草地を見ながら登り進み、ゲート。脇を抜けて林舗道を東へと進む。分岐を右に登り進むと平坦になり左側に山の表示。灌木の中を登り進むと亀石山山頂。二等三角点あり、笹、ススキの荊り払われた草原の丘の山頂。晴れて風なく静か。ブナの木が1本あり、山々の眺めが良い。来た道戻る。

○「ハナグロ山1086m」山頂10:20 9:10~11:20(2:10)霧越林道ゲートより往復。草が伸びる林舗道を左に鉄塔を見ながら登り進むと左に登山口。山入りし、所どころ不明な道をテープ等辿り、東へ尾根を登り進む。なだらかな稜線をアップダウンしながら登り進むとハナグロ山山頂。樹林の丘の山頂で、奥に酒呑童子山に続く縦走路を確認。山々の眺めあり、小鳥の声聞こえ静か。休憩していると突然荒い息遣いの大きなリュックの登山者が現れて、挨拶し付近の山話して、来た道に戻る。

○「八方ヶ岳」12:40~14:45(2:05) 上虎口登山口より往復。狭い駐車場が一杯で、伐採木のキノコ植え作業の方の昼休み食事所抜けて上の1P先に駐車しピンクのテープより急坂のコンクリート道登り進むが作業道らしく行き止まりで、仕方なく、植林地の獣道らしきを上へ。ザレバ、急坂を本道と山を目指して大汗かきながら半袖になり、登り進む。植林地の急坂の獣道等辿り北へ登り進むと本道に出て安堵。東へ急坂道等を登り進むと八方ヶ岳山頂13:45。二等三角点、祠あり、小岩、芝生のある広場の山頂。曇り空のもと、山々の眺めあり。居合わせた地元の方と山話して、本道の急坂下り、伐採跡経て、数人がキノコ植え付け作業中の林舗道に出て戻る。

○「震岳ユルギ」16:15~18:05(1:50)林道終点より往復。何も表示なく、登山口不明。赤テープの方向と違う荊り払いされた方向へと登り進む。道らしきなく、獣道ら

しきを上へ上へと登り進むと1 P。図根三角点あり。北へ山が見えて、稜線の小藪を下り進み、鞍部で本道の距離表示(片道2 km)を確認。時間かかりそうで急ぐ。倒木等の荒れた尾根道を登り進む。途中、尾根分岐をテープ等で、確認しながら登り進み、笹藪分けて上に出ると震岳山頂17:20。一等三角点、祠ある笹原の樹林の丘の山頂。西側オレンジの夕焼け。風なく、小鳥の声あり。来た道を分岐、テープ等確認しながら鞍部の表示地。そこから植林地の道をテープ等確認しながら、堰堤上の登山口に明るいうちに戻る。明日は、雨模様で、今回はここまで。

○2月10日(木)休み~12日(土)九州北部10山(2山) 2月13日(日)は、雨のためなし。その1

○2:10 曇り一時雪 大分北2山(1山)

○「雨乞岳」山頂14:15、(黒岩山1106m)同14:45、「城ガ岳」同16:30 13:30~17:55(4:25) 林道分岐ゲート口より往復。ゲートより林舗道を登り進み、分岐より表示を辿り、左へ登り進むと雨乞岳登山口。土が凍る道を登り進み稜線分岐。左へ稜線をアップダウンし登り進むと雨乞岳山頂。三角点あり、軟らかな積雪1 cmある樹林の丘の山頂。曇りながら山々の眺め良い。風音あり。次へと稜線に戻り、分岐より北へ進み、黒岩山山頂。樹林の稜線のピークで、風あり。テープ辿り、方向転換し急坂を下り進むと4差路の峠。道が怪しくなり、伐採跡地を右往左往しながら進み、何とか稜線の本道に出合い、進むと1 P。大きな猿を見かけドキリ。方向転換し急坂の少し雪のある道をテープ等辿り慎重に下り、鞍部より稜線を登り進む。別ルートと合流し、次の山の表示方向を確認。時間かかりそうで急ぎ足で、稜線を下って行き、鞍部で次の表示。ススキ、岩垣根の道を進み、植林地の急坂の小笹の道を笹の上の雪を払いながら登り進むと城ガ岳山頂。二等三角点あり、ススキの原の丘の山頂。一瞬集落の眺め見えたが、曇りで、冬風、溶けた積雪1 cm。天候が、荒れて粉雪舞う中、急坂下り、来たルートを確認しつつ、直角の分岐も確認して十字路の峠に戻り、東へ下ると来た林舗道に出て、すぐ分岐となり、ゲートの登山口に明るいうちに戻る。

○2:11 晴れ 大分中央4山(1山)

○「熊群山」山頂7:50 6:30~8:35(2:05) 神社への舗道駐車場より往復。岩塊を通過できるか懸案の中、明るくなり出発。急坂のコンクリート道経て、つづら折れの急坂を登り進み、終点の神社。参拝し急坂のロープ付きの石段を登り、横移動し更に同じような急坂のロープ付きの石段を登ると奥宮で、参拝して、右奥へとテープ辿り登り進む。直角の鎖の岩塊に出て、大きな鎖を片手で掴みつつ、足場をしっかりと確保して3点確保で、直登岩にへばり付き、ゆっくり足元と手を確認しながら、難所を上へ。その上は、急坂のロープある岩、木のルートで、慎重に手と足場を確認して登り進むとなだらかな山容となり、テープ等辿り、幾つかピーク経て進むと熊群山山頂。三角点あり、樹林の丘の山頂。奥の別ルートを確認し来た道に戻る。急坂は慎重に手、足場を確認し、大きな鎖の岩場は、岩に向かい鎖を片手で持ち、足場を1歩1歩確認して何とか下り、少し安堵して来た道に戻る。懸案の岩場を何とか歩いて満足。

○「冠山761m」山頂10:00 9:25~10:30(1:05)永慶寺跡の林舗道分岐ゲート口より往復。林舗道進み、分岐より沢沿いを進むとすぐ登山口。茨多い、植林地の坂を登り進み、右に谷を見て、トラバース道を慎重に進む。急坂となり、上へテープ辿り進むと稜線の端。急坂等の稜線を登り進むと冠山山頂。樹林の丘の山頂。朝日、冬のそよ風

が心地良い。山々、集落の眺め良い。境界標石あり、来た道を確認しながら戻る。

○「小鹿山」山頂12:05 11:35~12:35(1:00)神楽女湖駐車場より往復。別府東山ハイキングコースのコンクリート遊歩道を登り進み、四辻。右へ急坂登り進みと再び四辻。ここも右へと進み、植林地の作業道に入り、鞍部より東へ登り進みと上に稜線あり、登り出してみると、何と広い防火帯。南へと急坂等登り進むと小鹿山山頂。三角点、電波塔、百葉箱ある樹林の丘の山頂。東の展望地より、別府湾の街、海、山々の大展望を楽しむ。晴れて冬風あり。来た道戻る。遊歩道で、子犬等を連れて沢山のハイキングの方に挨拶し駐車場に戻る。

○(飛来山485m)山頂14:25、「霊山」同14:45 14:00~15:35(1:35)霊山寺駐車場より往復。霊山寺を参拝して、右側のコンクリートの急坂を登り進むと広場を経て、中央登山口。尾根の稜線を登り進むと小山あり、登ると飛来山山頂で、祠ある樹林の丘の山頂。少し下り、稜線を地元のハイカーに挨拶しながら登り進むと霊山山頂。東側に山々の眺め良い丘の山頂。奥へと稜線を進み、第一展望台、三角点を経て、第二展望台まで進む。北方向に山々、大分市街、海の眺めを楽しむ。帰りは、飛来山より霊山寺への近道の急坂を下って戻る

○1月29日(土)、30日(日) 大分北5山

○1:29 大分北4山 曇り後晴れ

○「角埋山:ツノムレ」10:00~25(0:25)三の丸駐車場より往復。遊歩道進み、神社を経て、展望地で、九重山系の山々の眺め楽しみ、進むと角埋山山頂。角牟礼城本丸跡の広場の山頂。曇り、山々の眺めあり。冷たい空気で、来た道戻る。

○「大岩扇山」10:55~12:15(1:20)林舗道の民家手前の駐車場より往復。民家を経て、植林地を東へ進み、八丁坂出合い。石畳の緩やかな旧道を登り進み、舗道終点と出会う(八丁峠)。林道の急坂等を経て、緩やかな稜線を進み、案内表示辿ると大岩扇山山頂11:30。曇りで、石碑ある平坦な山頂。山々の眺めあり。来た道戻る。

○「宝山」12:55~14:25(1:30)宝山八幡宮第2駐車場より往復。神社を経て、鳥居のある登山口を進む。植林地等樹林の中を登り進む。急坂、幾つもの神社を経て、トラバース道となり、奥宮分岐より右へ植林地を登り進むと旧作業道に出る。東へ進むと程なく宝山山頂13:45。三角点あり、植林と広葉樹境界の丘の山頂。晴れて陽光あり、静か。来た道に戻り、神社を参拝し、大木に触れて戻る。

○「月出山岳:カントウダケ」16:00~25(0:25) オレンジプラスチッリ往復。作業道の急坂を登り進みと旧展望台、石碑のある稜線。西へ進み、案内より少し入ると月出山岳山頂。三角点あり、樹林の細長い稜線のピークで、晴れて山々の眺め良い。来た道戻る。

○1:30 大分北1山 曇り

○「平家山」6:20~7:50(1:30)尺間神社鳥居、林道ゲート口より往復。ゲートより薄明るい中、出発。昨晚薄暗い中歩いた林道分岐等を経て、さらに北へ登り進む。伐採跡を右に見て林道を登り進むと峠近くに登山口案内あり。急坂等登り進むと稜線。テープ等案内辿り、東へアップダウンしながら登り進む。トラロープの急坂を経て、作業道を右下に見つつ、登り進むと平家山山頂7:10。三角点、祠、陸軍標石柱ある樹林の丘の山頂。曇りで、少し冬風あり、山々の眺め良い。来た道を淡々と戻る。登山口で、地元の登山者に挨拶。今回はここまで。

○1月22日(土)大分北3山(2山) 曇り時々晴れ

○「鬼落山」山頂8:20、(石井山)同8:50 7:10~9:35(2:25) 山袋の若宮神社口より往復。舗道終点より林道を進み、分岐案内より右へ林舗道等登り進むと林道終点が登山口。ザレた、石ころの谷沿いの道を進む。植林地、急坂のロープ、鎖道経て稜線分岐。東へ急坂のロープ、鎖の岩道等をゆっくり登り進むと鬼落山山頂。樹林の丘の山頂(大分百山)で北西側から山々、街、海岸線の眺め良い。風なく静か。急坂の稜線を慎重に下り分岐より西の稜線へ。急坂の細いロープ等の道を登り進むと石井山山頂。三角点あり、樹林の丘の山頂。鬼落等眺めあり。冬風あり、来た道を分岐経て、ロープの急坂を慎重に下って戻る。

○「鹿嵐山」山頂11:25、(雌岳730m)同11:55 10:35~12:35(2:00)中央登山口より往復。植林地の中を距離表示辿り登り進む。急坂、岩場等を慎重にゆっくり登り進むと稜線分岐。西へ急坂等登り進むと鹿嵐山山頂。一等三角点ある樹林の丘の山頂。晴れて風なく静か。北側に鬼落等山々、集落の眺めあり。まだら残雪0.5ミリ。稜線をゆっくり下り、分岐より南へ。緩やかな坂を登り進むと雌岳山頂。祠ある樹林の丘の山頂。小鳥の声あり、静か。来た道を分岐経て、岩場等の急坂を慎重に下り戻る。

○「木の子岳:大岳」15:30~18:15(2:45) 登山口不明で車で九州自然歩道の林道進み、掘られた段差の手前で車の方向転換に失敗して、前輪を林道脇の溝に落とし脱出にスコップ、ボロ毛布、ジャッキ使う。杖での車の下の石砂利のかきだし等総動員して約2時間かけて何とか無事脱出。自然歩道の木の子まで1.4km表示より往復。疲れた重い腰のまま、遅れて出発。古い遊歩道らしきを谷沿いに登り進む、距離表示(木の子1.0km)経て進むと城井峠。ここから遊歩道は直進みたいでやむ無く、左への旧作業道へ。山を探して尾根に入る。急坂の植林地の獣道らしきを上へ上へと登り進む大岩を左から回り込み上部に出ると赤テープあり、登られてるところと確認。ここから上への尾根は、岩岩の急坂のため、右へと大倒木地帯を倒木を幾つも乗り越えてトラバース気味に奥へと進む。植林地となり、急坂の獣道らしきを上へ登り進むと支稜線鞍部。東へ急坂登り、赤テープ経て、1P16:20。図根三角点あり、西に目指す山らしきが見えてトライ。急坂をゆっくり下ると4差路の旧林道。右に赤テープあり、進むと下るため引き返し、西への中央の旧林道を進む。途中から獣道をよじ登り、樹林の尾根に出て、防護ネット沿いに登り進むと上の旧林道に出て、目印の赤布を付けて林道を上へ登り進む。分岐となり、やむ無く真ん中の尾根に入り、獣道らしき急坂を上へ上へと登り進む。大岩を2ヶ所何とか慎重にすり抜けて上部に出て登り進むと電波塔に出る。出口(入口)に赤テープを確認。奥へ登り進むと程なく木の子岳山頂17:00。三角点あり、樹林の丘の山頂。山々の眺め良い。晴れて静か。時間遅く、急ぎ足で、来た道へ。大岩の急坂は、慎重に下り、旧林道の赤布を回収して、4差路の林道経て、1Pへ急坂登り、ピーク手前より北へ支稜線下り鞍部。植林地の急坂をゆっくり下り、倒木地帯を右にトラバース気味に倒木を乗り越え進むと急坂の岩場。ゆっくり慎重に下へと降りて行くと見覚えのあるテープと大岩の上部。ここからもゆっくり急坂の植林地を下って、下の旧作業道経て城井峠18:00。薄暗くなり、ライトを付けて、谷沿いに旧遊歩道をゆっくり下って行くと何とか自然歩道案内のある林道の駐車地に戻り大安堵。明日は雨のため、今回はここまで。

○1月15日(土)、16日(日) 大分北4山(1山)

○1:15 大分北3山(1山) 晴れ

○(八方岳542m)山頂13:10、「大観峰542m」同13:20 12:00~14:35(2:35) 熊野磨崖仏駐車場より往復。拝観料を支払い窓口で山へのルートを教えてもらい、入山届けを記入して出発。整備された遊歩道を進み、石段の急坂登る。途中で大きな磨崖仏2つあり、拝み、急坂の石段の

終点が神社で参拝。左の倉庫の奥よりテープ辿り急坂を登り進む。岩、ロープ等の急坂尾根をゆっくり慎重に東へと登り進み別ルートと合流。ここから岩岩の痩せ尾根、鎖、足鉋の岩場を慎重にアップダウンしながら登り進むと周回ルート案内、別ルートと合流しすぐ八方岳山頂。岩峰で細岩尾根稜線のピークで図根三角点あり。さらに奥に山のピークあり、細岩尾根稜線を慎重に下り、鞍部より鎖付きの壁に近い岩場を足場を確認しながら、3点確保で慎重に登りさらに岩の稜線を登り進むと大観峰山頂。八方岳の岩峰、国東半島の山々、集落、海の眺めが良い。晴れて静かで少し雪あり。八方岳へ巻き道等経て戻り、来た周回コースをゆっくり下る。股覗き岩、無名岩等を確認しながら稜線を下り、次の分岐より急坂をロープ、木、岩等掴みゆっくり下る。神社、磨崖仏を参拝して戻り、拝観受付に挨拶。

○「屋山」15:20~16:25(1:05) 長安寺駐車場より往復。林舗道等登り進み終点より城跡の急坂、トラロープ道の尾根を北へ登り進む。城跡らしき道を登り進むと屋山山頂。三角点、祠、史跡のある樹林、岩の丘の山頂。晴れて少しまだらに雪あり、冬風、小鳥の声あり、静か。来た道戻る。

○「千灯岳」17:00~19:00(2:00) あかねの郷口の林道途中より往復。時間が遅いが、明日の天候心配しトライ。林舗道を淡々と東へ進む。幾つかの分岐を表示案内を辿り進むと荒れた林道となり、植林地伐採あとの防護ネットとすすきの刈り払いされた道を進むと分岐で案内あり。矢印は左だが、荒れた林道が続く模様で、目指す山方向の北へ植林地に入り、急坂を獣道らしきを上へ上へと喘ぎながら登り進む。途中に1つベンチあり、急坂の道らしきをさらに上へ上へと登り進み1P。目指す山はさらに北のようで、急坂を慎重に下ると鞍部に山の方向表示と下と上に階段道のある本道に合流。ゆっくり階段道を進み、急坂のつづら折れ道を登り進むと千灯岳山頂18:00。三角点あり、イス、テーブルが沢山ある樹林の丘の山頂。月、街明かり、海岸線、夕焼けの眺めが良い。冬風少し、積雪5mm。暗くなりライトを点けて急ぎ足で来た階段等急坂下り、鞍部より本道を階段、テープ等辿り、ゆっくり確認しながら下る。植林地に出て、旧林道下るとススキの刈り払いされた見覚えのある分岐に出て安堵し後は、来た林道を確認しながら戻る。

○1:16 大分北1山 晴れ後曇り

○「猪群山」6:50~8:30(1:40) 南側常盤登山口より往復。ほの薄暗い中、出発。林道を奥に進み、分岐より表示辿り山入り。テープ等の案内を辿り、急坂のロープのつづら折れの道を上へ上へと登り進む。東へトラバースの急坂道を登り進むといっぷく望の1P(稜線末端)。さらに北へ稜線を登り進み猪群山山頂7:45。二等三角点あり、広場の平坦な山頂。朝日あり、西側に集落、海岸線の眺めが良い。東屋、イス、冬風あり。来た道を確認しながら、急坂等をゆっくり戻る。今回はここまで。

○1月7日(金)休み~10日(月) 9山 大分北2山、中央2山、南2山、宮崎中央2山、北1山

○1:7 大分北2山 晴れ

○「両子山」14:15~16:05(1:50) 両子寺より往復。右奥の建物手前の岩道の石段、鬼の背、針の耳の岩穴経て、ロープの急坂をゆっくり登り進む。岩場を右にトラバースして進むと尾根稜線。北へ登り進むと両子山山頂15:10。一等三角点、電波塔、展望台ある草原の山頂。山々、海の眺め良い。晴れて暖かく静か。来た道戻る。

○「文殊山」16:50~17:50(1:00) 林舗道の水谷峠より往復。踏み跡らしきを南へ尾根を辿り進む。樹林帯で別ルートの本道に合流して、テープ辿り、急坂を登り進む(途中夕日がキレイ)と文殊山山頂17:25。三角点あり、樹林の丘の山頂。南側に山、集落、海の眺め良く静か。来た道を夕暮れ近くに戻る。

○1:8 宮崎中央2山 曇り後晴れ

○「国見山」8:05~12:00(3:55)曇り 神社登山口より往復。神社参道奥の右側より階段道、人家脇を経て、進むと上の林舗道。右へ舗道進むと程なく登山口。緩やかな整備された道を進む。途中パラ雨あるもあがり、稜線下のトラバース道を進み、稜線に出て、アップダウンして南西の奥に登り進むと国見山山頂10:15。二等三角点ある樹林の丘の山頂。東側に山々、海岸線の眺め良い。曇りで風なく静か。来た道戻る。

○「地蔵岳」14:40~17:20(2:40)晴れ 尾八重大橋登山口より往復。道探しに迷い時間を要して遅い出発。登山口より下り、川を徒渉して対岸。テープを探し、植林地の道を登り進む。倒木地帯を経て、急坂の岩、樹林の尾根を時折、テープ、合目表示確認しながら登り進む。急坂の岩道は、木や岩に掴まり、ゆっくり進み、踊り場の打越分岐。ここから右奥へと瘦せた、細い急斜面を慎重に登り進むと地蔵岳山頂16:00 1089m。石仏ある樹林の丘の山頂。晴れて冬風少し。小鳥の声あり、静か。来た道を合目表示、テープ等確認しながらゆっくり下り、最後は、右へトラバース道進み、大橋の西へ出て橋を渡り戻る。

○1:9 宮崎北1山、大分南2山 晴れ

○「比叡山」7:15~11:20(4:05) 南登山口より周回し千畳敷口より戻る。尾根道を登り進む、千畳敷ルートと合流し急坂を登ると分岐。左へ登ると1Pの比叡山山頂8:20。大岩群の樹林の丘のピークで陽光あり、大岩より本峰等山々の眺め良い。分岐に戻り、稜線をアップダウンしながら東へ進む。大岩の間のアルミの梯子橋2つを慎重に登り大岩の上。先に山が遠く見えて、丸い大岩の補助ロープある急下りを慎重に下り、大岩等の間を縫うように進み、急坂を経て、登り進むと比叡山の最高峰の山頂9:15。三角点あり、樹林の丘の山頂で、北と南の山々の眺め良い。晴れて風が冷たい。来た道戻り、丸い大岩登るとカラコロン岩で、北側に昨年より苦労して登って来た山々の同定をして晴天のもと、懐かしむ。来た稜線に戻り、分岐経て下り、千畳敷分岐より千畳敷ルートを下る。急坂、岩道等を慎重にテープ等確認しながら下る。途中に「日本の山1000」の表示を確認。岩道をゆっくり下り、下の分岐より左へ。舗道の上に平行している平坦な遊歩道を南へ進むと平坦な広場の岩盤の千畳敷。西向かいの岩峰の矢筈山(既に登った)と東の比叡のロッククライムの岩峰の景観を楽しみ、P、トイレあるコンクリ石段の登山口に出て戻る。

○「姫岳」14:40~16:10(1:30) R204 峠より往復。登山口案内よりテープ辿るもトラバース道のため、諦めて、急坂をゆっくり上へ上へと登り1P。後は、稜線を東へアップダウンしながら進む。鞍部で本道と合流し青ペンキの目印等辿り進む。急坂を登り進むと姫岳山頂15:25。三角点、祠ある平坦な山頂で、山々、街の眺めあり。淡い陽光ある曇りの天気由来た急坂を慎重に下り、合流点よりトラバース道の本道へ。途中ザレバ道で道喪失部分を幾度か慎重に横切り、峠に戻る。

○「鎮南山」17:15~45(0:30) 林舗道鎮南線登山口より往復。登山口より尾根の稜線を北へ登り進むと鎮南山山頂。三角点ある樹林の丘の山頂。日没後夕曇りで、山々、街の明かりの眺め良い。冬風冷たくすぐ下山。

○1:10 大分中央2山 晴れ

○「樅木山」6:35~8:15(1:40) 林舗道奥の駐車場より往復。薄暗い中、林舗道を南へ進み登山口。整備された道を沢山の励ましと道案内表示に助けられ、稜線を右から回り込むように進む。植林地の急坂登ると樅木山山頂7:20。一等三角点あり、樹林の丘の山頂。オレンジ色の朝日拝む。朝焼けの何とも云えない素晴らしいグラディエーションと山々、港、海の眺めを楽しむ。風あり、来た道戻る。

○「九六位山」9:45~10:30(0:45) キャンプ場駐車場より往復。寺を経て、左側より登るとキャンプ場となり、小高い丘に登ると摩利支天像、東屋ある丘の九六位山山頂。大分市街、海、山々の眺

め良い。下り、キャンプ場の東奥へと進むと三角点、展望台あり、晴天で、小鳥の声、陽光、山々の眺め楽しみ、来た道戻る。

今回は、ここまで。

○令和4年1月1日~3日 宮崎中央3山、大分北2山

○1:1 「釈迦岳」5:35~8:25(2:50)登山口より往復。暗いうちから初日の出の登山者が多く動く中、連れてライトを点けて出発。緩やかな遊歩道進み、岩尾根の急坂等経て、高度を上げ、明るくなり、日の出の頃急坂経て、沢山の人がいる釈迦岳山頂7:15。二等三角点ある樹林の丘の山頂。海、街、山の眺め良い。初日の出を拝み、すぐ来た道をゆっくり戻る。

○「掃部岳」山頂1700 14:05~20:10(6:05) [伝説の山歩き編] 前谷林道の前谷橋口より往復。県道から砂利林道分岐より7kmを歩きは、3:50、帰りは1:30かかる。落石、木、枝を除け、伐採材木運搬等で普通車では難路のため、時間を要した。橋の袂に登山口案内あるも、古くて方向が不明。やむ無く橋の手前の急坂登り進み、伐採道に出ると目指す山は橋の奥の尾根のため、戻り、再出発(約40分のロス)。林道を川沿いに奥へと進み、左の尾根への取り付きを探す。林業の案内板より獣道を辿り急坂登ると上の作業道。上へ登り進み、疲労で動けなくなり、大木の近くで一休みし軽い食事。人心地つくが、疲労は続く。作業道終点まで登り、上の尾根を目指す。疲れて、休む回数が増えるつつも、上へ上へとゆっくり急坂を登り進むと稜線15:20。ここで初めて山の案内表示出て、時間は遅いが、取りあえず明るいうちにと、山の方向を慎重に再確認し西へと稜線を進む。テープ等辿り、登り進む。第2展望所で別ルートと合流し方向を北側へと代えて稜線を下り急坂を登り返すと掃部岳山頂。三角点あり、樹林の丘の山頂で夕日がキレイ。晴れて、山々の眺め良い。夕暮れで来た道を急ぎ下る。途中から暗くなり、ライト点けて稜線を東へ下って行く。途中2、3度道迷いし、辺りをさ迷う。ライトを消しても真っ暗で何も見えず、やむ無く、テープの分かるところまで引き返し両手を広げて、緩やかな下り坂を探して進むとテープ目印が出てそのまま下る。同じように不明点で繰り返してゆっくり下って行き、登りに付けた稜線出合いの目印を回収し東へ急坂を下り、何とか、作業道に出てそのまま下って行く。途中から更に東へと下る所を探したが、暗くて分からず、そのまま作業道を淡々と下って行く。最後に車の通る林道に出る。その脇に登山口案内あり。林道を川沿いに冬風の中、下って無事駐車地に戻る。

○1:2 宮崎中央1山 晴れ

○「大森岳」山頂12:10 10:55~13:20(2:25)各県道が災害で通行止めで、唯一アプローチ可能な輝嶺峠より砂利林道約7kmを歩き1:15、帰り0:55にて進み登山口。そこから往復。樹林中に登り進み、1Pの三角点。稜線をアップダウンしながら、痩せ尾根、岩場等を登り進む。急坂等経て進むと大森岳山頂一等三角点あり、電波塔も近くにある樹林の丘の山頂。晴れて日差しが心地良い。暖かく柔らかな風に癒される。山々の眺めあり、来た道を緑の照葉樹の森を楽しみながら戻る。

○1:3 大分北2山 晴れ

○「津波戸山」8:35~10:50(2:15) 南側登山口駐車場より往復。駐車地近くの地元の方にルート等教えてもらい出発。舗道登り進み登山口。緩やかな道を進み、岩場の石仏の中を縫うように、岩場の道を登り進む。テープ等辿り登り進むと奥の院。更に急坂の補助鎖ある道を登ると稜線に出て、稜線を西へ進むと展望台で眺めが良い。更に北の奥へと進むと津波戸山山頂。樹林の丘の山頂で三角点あり、青空、緑の照葉樹林。来た道を石仏等確認しながら戻る。

○「華山」11:20~12:55(1:35)ふるさと林道の舗道の登山口より往復。小さな登山口表示ある登山口で下山者に会い、ルートを教えてもらい出発。急坂舗道から作業道進み、テープ等辿り、南



の奥よりザレバを木等に掴まり、ゆっくりと急坂を登り進むと1Pで本道と合流。後は、尾根筋を岩場等経て、アップダウンしながら登り進みと華山山頂。樹林の丘の山頂で三角点あり、晴天で、陽光、風が心地良い。一部海が見える。小鳥の声聞こえ、静か。来た道の本道をテープ等辿り戻る。今回はここまで。